

会長就任にあたって



会長 野田 忠吉 住友金属工業(株) 代表取締役副社長

このたび、第81回通常総会において新会長に選任されました。これは私にとりまして、身に余る光栄でありますと同時に、責務の重大さに身の引き締まる思いが致します。

本会は、歴代会長の御指導の下に築いてきた伝統に加え、創立80周年を機に、佐野前会長の素晴らしいリーダーシップのもとに、リストラ80を実行に移しております。そして学会部門、生産技術部門が、それぞれ、新しい活発な活動を開始しております。また、予算面でも活動費、管理費を合理化し、新しい事業に投入するという、本当の意味での、リストラも進められています。これらの円滑な推進のための企画機能の充実強化もはかられています。

今後は、いかにこのリストラ80を定着させ、実効をあげていくかが大切であり、そして、本会が鉄に関わる研究者や技術者にとって魅力ある学会であると同時に、鉄鋼業界全体にとって魅力ある存在でなければならないと思っております。

平成7年度の鉄鋼業の企業各社の業績は、前年度に比べ好転する見通しであり、前途に明かりがついたものの、まだまだ予断を許しません。というのは、この収益好転は、製造現場の懸命なコスト合理化努力、徹底した人員の合理化、資産の圧縮、更には設備投資や研究開発投資迄も削減した、必死の経営努力の結果であるからです。そして、これらのことは将来、他の国でもやろうと思えば真似の出来る施策ではないかと思われるからです。

こうした背景を考えると、これからの日本の鉄鋼業は「技術の力」で企業経営の体質を強化しなければなりません。例えば、先進的プロセス開発による工程省略で抜本的なコストダウンをはかる、新しい機能の製品の開発で新しい市場を開拓する、社会鉄鋼工学的なアプローチで環境にやさしい鉄鋼製品が、正しい価格評価を受けるようにするなどであります。そのためには、常に新しい技術が発信され続けなければなりません。

幸い本会では、リストラ80により、学会部門に5つの専門分野別部会が発足し、その下に、60近くのフォーラム、自主フォーラム、研究グループが出来、すでに活動をはじめています。一方、生産技術部門でも22の分野別部会がありますが、これに多数の大学の先生方が参画して戴くようになりました。更に38の技術検討会が、技術課題の抽出と技術創造を目指して活動をはじめており、学会部門と生産技術部門双方の専門家により8つの研究協議会が結成され、研究テーマ検討の場も整い、心強い限りであります。このような部会活動から、新しい技術が生みだされ、発信され、育っていくことを限りなく期待するものであります。

さて我々は、学問の新しい展開に伴い、学術分野の有機的相关のもとに技術開発が進む「テクノロジーミックス」の時代を迎えております。例えば製鋼工場にしても、従来は所謂、冶金学科出身の技術者の独壇場でありましたが最近の技術の高度化に伴い本来の製錬と凝固のほかに機械、熱流体、耐火物、計測、制御、コンピューター等の関連する情報と技術が相まって、先進的な開発に結びつくケースが増えていきます。このため、他の学会との交流も、今後、更に活発にしていかなければなりません。このように、学術分野の新しい相関を理解し、それを技術と結びつけることにより、新製品や新プロセスの開発のみでなく、新たな領域の産業分野への技術の展開も可能となるでまいしょう。云うまでもなく本会は、個人活動をベースとする学会機能と維持会員会社の社員の活動をベースとする技術会的機能の両面を併せ持った、大学と企業が一体となって活動できる唯一無二の学会であり、この利点を今後の学術・技術の発展に、大いに活かして行くべきだと思います。

19世紀は「国家の時代」、20世紀は「経済の時代」、そして21世紀は「環境エネルギーと科学技術の時代」と言われています。21世紀にかけて、鉄鋼業界にとって、優秀な技術者の確保は最も重要な課題の一つであります。こうした中、本会でも活発な育成・助成活動、特に「会員増強特別委員会」の活動のお蔭で会員数、特に学生会員の数が増え止まり、若干増加傾向にあるのは誠に喜ばしいことであります。学会部門の専門分野別部会、生産技術部門の分野別部会の活動が更に活発になり実効が上がってくれば、国内外における本会のプレゼンスも向上し、一層の会員増にもつながるに違いありません。更に、社会鉄鋼工学の分野や物流部会などの分野では所謂、事務系の人達の参加も必要になってきます。

会報「ふえらむ」の創刊号の佐野前会長の対談記事の中で、「自分の研究室に鉄の勉強にきた学生が実は鉄道マニアだった、鉄道のレールは鉄でしか作れないので鉄を研究に来た」とありました。私も、企業に入社後、本物の鉄道車両用の車輪や車軸を永らく造っていましたが、当初は「鉄でなければ出来ない」と言う自覚を持たず、当然の事としてやって参りました。このように、鉄の有難さや面白さを意識せずに、鉄に関与している人達がまだ随分おられるのではないのでしょうか。また、これから先、鉄に関与してくる分野の人達も数多く出てくるのではないのでしょうか。会員として参加して戴く人達はまだまだ広がってくると思います。

リストラ80で作成した中期計画のターゲットは平成9年度です。先ずこれを達成しなければなりません。そして、これと並行して平成10年から実施する新中期計画の策定に臨まなければなりません。その時期が迫ってきています。本会をより魅力あるものにするため、アンケート等により会員の総意を汲み上げ、方向を見定めて行く必要があると思います。また支部活動の更なる活性化、国際交流の更なる活発化等、課題は他にもたくさんあります。

私自身は浅学菲才ではありますが、鉄鋼業を発展させたい、そのためにも本会の発展にいささかでもお役に立ちたい、という強い気持ちがあります。会員の皆様の御支援、御協力を戴いて、微力ながら一生懸命務めるつもりですのでよろしくお願い申し上げます。